

2022年8月3日
九州旅客鉄道株式会社

2023年3月期第1四半期決算説明Web会議 主なQ&A

- Q 第1四半期の連結営業利益は78億円と黒字化した。鉄道旅客運輸収入が想定よりも良かったとの記述があったが、計画と比較してどう評価しているか。また、定期外の数字が落ちているが、足元の7月の状況及びお盆の予約状況等をどう分析しているか。
- A 第1四半期は鉄道旅客運輸収入が想定よりも早いペースで回復するなど収入が堅調に推移したことに加え、全社を挙げて固定費削減に取り組んだBPRの効果が発現したことも大きく貢献している。一方で、7月の運輸取扱収入は26日までの速報値で対コロナ前73.9%、この内定期外は71.1%であった。7月の前半はコロナ前の8割程度、後半は6割程度となっており、コロナの第7波の影響については注視したい。また、お盆の予約状況は対コロナ前では半分程度だが、対前年228%と昨年からは倍増しており、コロナの感染状況を踏まえればお客さまの動きは悪くない。
- Q お盆の予約状況発表後、現在に至るまで予約率は変わらないのか、それとも低下しているのか。また、対コロナ前60%程度の予約率である他社と比べて御社の予約率は低いようだが、地域特性等あるのか。
- A お盆の予約状況は現時点でそれほど変化していない。他社よりは若干弱いかもしれないが、周囲の動きを見ながら判断し直前に予約が入るケースもあるので、今後の予約状況を注視したい。
- Q 鉄道が想定よりも良かったことは理解したが、鉄道事業以外のセグメントは計画通りか。
- A 鉄道事業以外は当初の想定線で推移しており、今回の堅調な決算は鉄道事業における収入の回復、コスト削減の進捗が主因だ。
- Q 第1四半期単体の営業利益77億円は通期業績予想182億円に対して4割程度進捗しているが、西九州新幹線の費用や修繕費等が今後出てくるという理解で良いか。西九州新幹線の費用について差し支えなければ年間計画、第1四半期実績を教えてください。
- A 第1四半期は順調に進捗したが、コロナの感染拡大で足元のお客さまの動きが鈍化していることを踏まえ、通期業績予想は据え置くこととした。修繕費も年度の後半に多く計上される。西九州新幹線の費用は公表を差し控えたいが、西九州新幹線関連の費用の多くは、開業月の9月を含む第2四半期以降に計上される。

- Q 第1四半期の単体の人件費の対前年減の要因は。通常業績回復に伴い賞与も増えるはずだが、何かテクニカルな要因によるものか。
- A 前年比では夏季の賞与支給月数は増やしている。一方で、2023.3 期初の採用をしなかったことで社員数が自然減となったことや、人件費にかかる会計上のテクニカルな処理の影響により人件費が減少した。
- Q 鉄道運賃・料金制度のあり方に関する小委員会の中間とりまとめ案が先般公表されたが、現時点で御社の印象を差し支えない範囲で教えてほしい。
- A 詳細はこれからだが、今回の中間とりまとめ案では、総括原価算定方法の見直しについて触れられているなど、良い印象を持っている。
- Q 役員報酬体系で基本報酬が8割、業績連動報酬が2割である理由は。
- A 今回、業績連動報酬として新たに金銭報酬も導入したが、比率については他社の事例も見ながら策定した。

<ご留意事項>

※本資料は、説明会当日の質疑をそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。また、本資料は、説明会当日時点において入手可能な情報、予測や作成時点における仮定に基づいた当社の判断等によって記述されたものであります。そのため、今後、新型コロナウイルス感染症の状況、人々の価値観やライフスタイルの変化、国内外および九州の経済情勢、不動産市況、各プロジェクトの進捗、法令規制の変化、その他の幅広いリスク・要因の影響を受け、実際の経営成績等が本資料に記載された内容と大きく異なる可能性があることにご留意ください。

以上